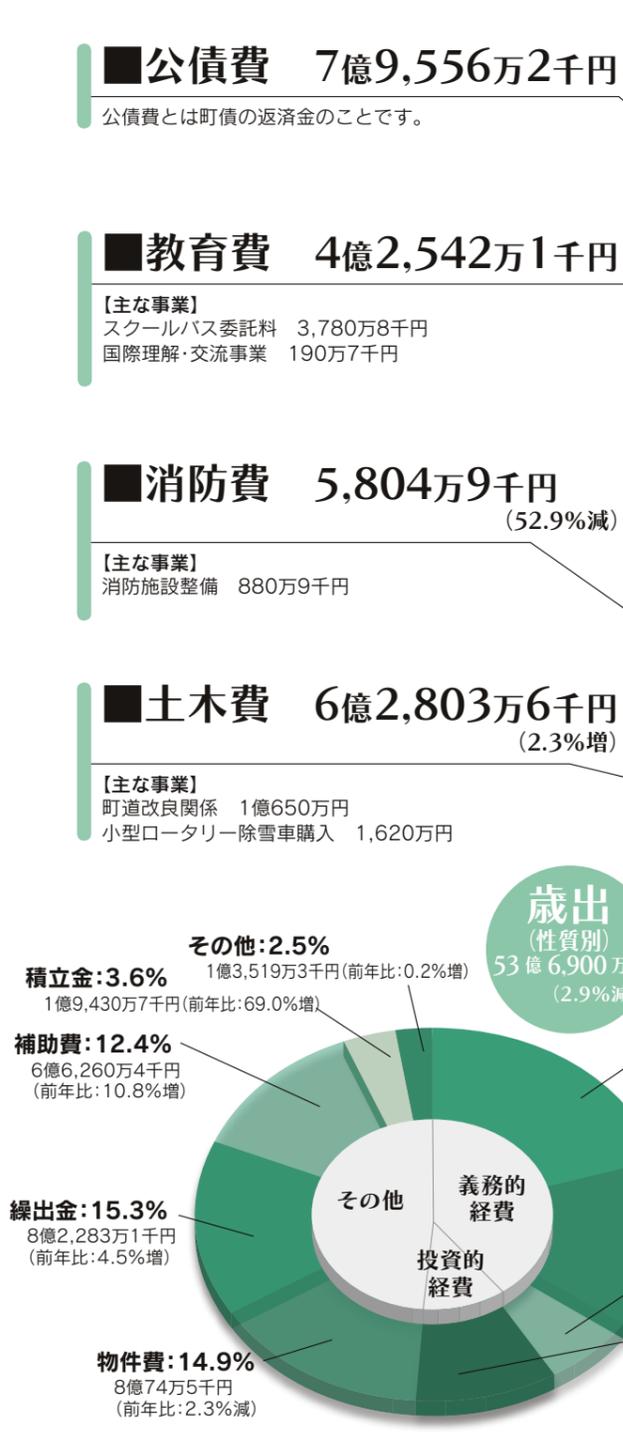
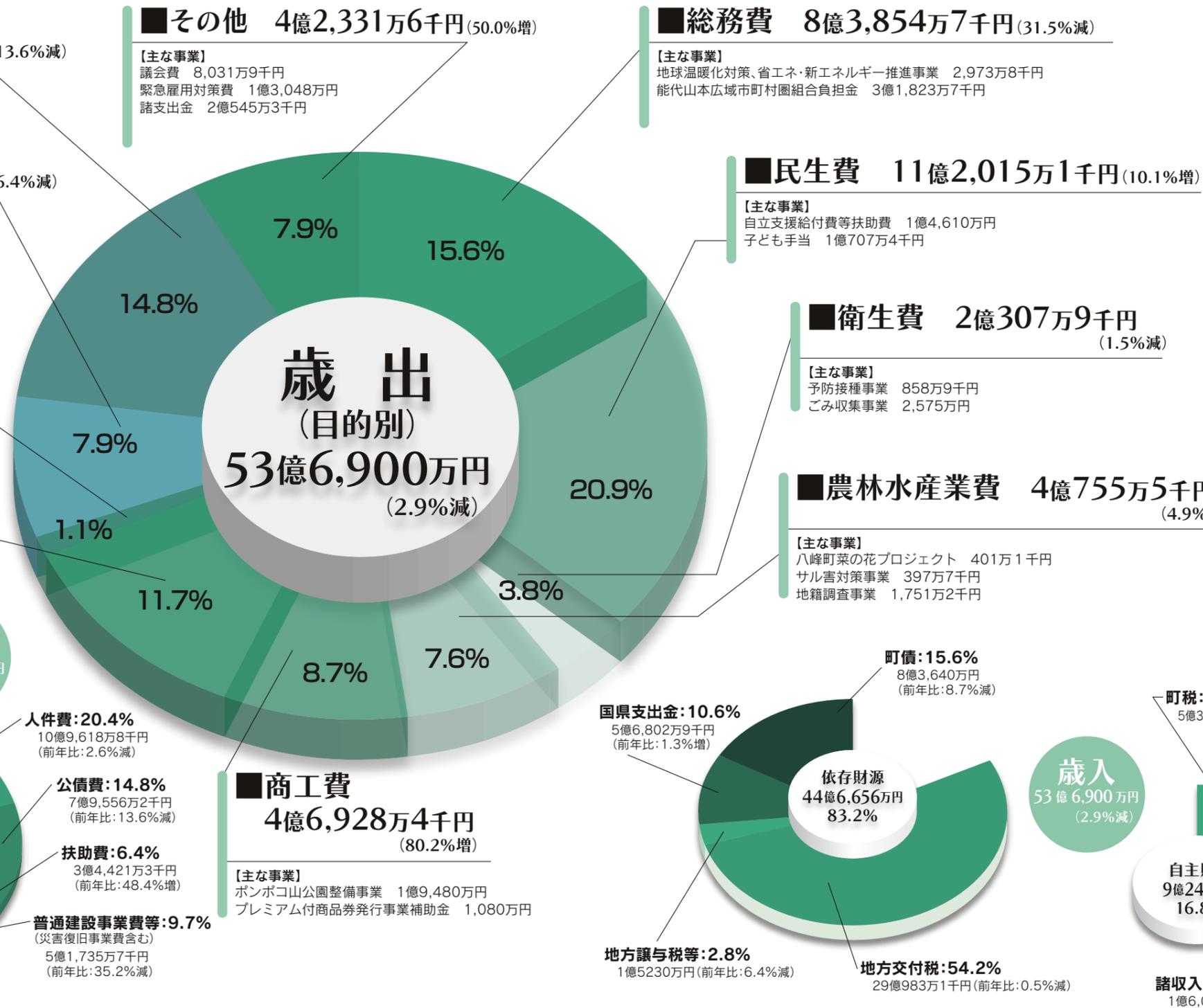


八峰町予算概要をお知らせします

一般会計予算は53億6,900万円

今年度の予算編成にあたっては、引き続き経常経費の削減に努めるなど財源確保の確立に努める一方、深刻を増している雇用対策、少子化・子育て対策、地域経済を支える農林漁業などの産業振興や町民生活向上の諸課題に留意しました。



各特別会計の予算額 (単位:千円,%)

会計別	22年度予算額	21年度予算額	前年比
国民健康保険	1,111,599	1,058,841	5.0
老人保健	165	3,017	▲94.5
介護保険事業	876,650	839,566	4.4
後期高齢者医療	84,640	86,761	▲2.4
沢目財産区	2,629	5,518	▲52.4
簡易水道事業	415,380	339,001	22.5
公共下水道事業	381,032	431,177	▲11.6
農業集落排水事業	165,970	425,419	▲61.0
漁業集落排水事業	42,909	38,302	12.0
町営診療所	77,119	104,950	▲26.5
合計	3,158,093	3,332,552	▲5.2

平成22年度 特別会計予算

町には一般会計とは別に、10の特別会計があります。平成22年度の予算総額は31億5,809万3千円で平成21年度の当初予算と比較する5.2%の減となっています。

的に収入しうる財源をいい、地方税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入がこれに該当します。

(注2) 依存財源とは国や県から交付を受けたたり、町債として町が借り入れるお金です。

歳入

景気低迷の影響を受け、自主財源(注1)の柱である町税は5億3,915万3千円で前年度と比較して1.9%の減となっています。一方で、分担金及び負担金が前年度より12.7%増加しています。

自主財源全体では9億244万円が昨年より6.6%減少しており、収入全体の16.8%にとどまっています。

一方、地方交付税や国・県支出金などの依存財源(注2)の割合は83.2%となっています。収入全体の8割以上を国や県に頼る厳しい財政状況となっています。

歳出

目的別では民生費が11億2,015万1千円でトップ。ついで、総務費、土木費が続いています。また、性質別では人件費、公債費、扶助費の義務的経費が22億3,596万3千円で1.8%の減となっています。また、庁舎建設事業が終了したことなどから、普通建設事業費は昨年度より35.2%減となっています。

(注1) 自主財源とは町が自主

予算概要